

令和 2 年 6 月 20 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03499

研究課題名(和文) ジャコバン主義の再検討：「王のいる共和政」の国際比較研究

研究課題名(英文) The reconsideration of European Jacobinism: A comparative study of 'Republic with King'

研究代表者

中澤 達哉 (Nakazawa, Tatsuya)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：60350378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「王のいる共和政」の国際比較を通じて、近代ヨーロッパ共和主義の再検討を行った。この結果、ハンガリー、ドイツ、ポーランド、スウェーデン、オーストリアにおいて、「王のいる共和政」というジャコバン思想と運動が存在したことを解明した。さらに、これらの地域における「王のいる共和政」論の源流を、16世紀の政治的人文主義(political humanism)による古代ローマ共和政の近世的再解釈に見出した。加えて、この思想が啓蒙絶対王政を正当化するための主導的原理として機能したことを実証した。このようにして、この原理が1790年代の中・東欧において広範に拡大することになったのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ジャコバン主義を「王のいる共和政」論から再検討した点で独創的であり、ジャコバン主義の多様性を従来脚光を浴びにくかった東欧、北欧、ロシアも含めて解明した点で新しかった。本研究の最大の意義は、「王のいる共和政」と「王のいない共和政」という近代ヨーロッパ共和主義に内在する二つの側面を複眼的に検証することによって、ヨーロッパ共和政史研究と近代史研究そのものに新地平を拓いたことである。

また、各国語の壁に阻まれ先端的な知見の総合が進まないヨーロッパ各国の国民史的歴史学界に対して、日本の学界の知見が触媒となり研究の総合化を前進させた点で、新たな国際研究の実践方法を提示するものともなった。

研究成果の概要(英文)： This study reexamined modern European Republicanism through an international comparison of the conception of the "Republic with King". As a result, this research clarified the diverse existences and evolutions of the Jacobins' ideas and movements of the "Republic with King" in Hungary, Germany, Poland, Sweden and Austria. Furthermore, it located the origin of such ideas of "Republic with King" in these regions in the early-modern reinterpretation of the ancient Roman Republic by the political humanists in the sixteenth century. Thus, this study proved that this constitutional concept worked as a guiding principle to justify the enlightened absolute monarchy in these areas. In this way, this principle was widely expanded in Central and Eastern Europe in the 1790s.

研究分野：西洋近世・近代史 共和政史

キーワード：ジャコバン主義 「王のいる共和政」 共和主義 啓蒙絶対王政 政治思想 国際研究交流

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1955年のローマ国際歴史家会議でアメリカのJ. ゴドショとR.R. パーマーが「環大西洋革命」論を提唱して以来、共和政史研究では、特にジャコバン主義研究者の間で活発な国際的議論が行われてきた。この結果、1980年代以降には、ヨーロッパのジャコバン主義は、フランス・イングランド・アメリカなどの大西洋圏のみならず、東中欧のドイツ・ポーランド・ハンガリーにも広範に拡大した、多様性を特色とする思潮と理解されるようになった。ドイツのH. ハーシスやハンガリーのK. ベンダの研究は、そうしたヨーロッパ・ジャコバン主義の多様性を検証した萌芽期の研究として名高い(H. G. Haasis, *Morgenröte der Republik: Die linksrheinischen deutschen Demokraten 1789 – 1849* (Ullstein-Verlag, Frankfurt-Berlin-Wien, 1984); B. Kálmán and E. Judit (ed.), *Vizsgálat Martinovics Ignác szászvári apát és társai ügyében* (Magvető Könyvkiadó, Budapest, 1983)。

しかし、1980年代の上記研究には以下の3つの問題点を指摘することができる。当該研究は、国民国家と国民史の枠組の下に各ジャコバン主義を把握しようとする傾向があり、近世複合国家の実態とその国家理論に規定されるジャコバン主義の側面については検討の対象にしていない。これと関連して、「王のいない共和政」を主張したフランス型のジャコバン主義思想に関心を集中させ、「王のいる共和政」を唱道した非革命的(または革命独裁的でない)ジャコバン主義には焦点をあてていない。それゆえに各国の後継の歴史学は現在も、「王のいる共和政」の国際比較によるヨーロッパ・ジャコバン主義の再検討という発想をもたない。

このような研究状況のなかで申請者は、平成23-24年度科学研究費補助金・若手研究(B)「ハンガリーにおける初期ジャコバン主義の生成と展開に関する研究」および平成25-27年度基盤研究(C)「ハンガリー・ジャコバン主義における共和政思想の転換とその展開に関する研究」の計5年の研究を通じて、ハンガリーを事例にすでに上記の課題に取り組み、近世ハンガリー複合国家に規定される「王のいる共和政」論の諸相を明らかにした。つまりハンガリー・ジャコバン主義は、世襲君主の強権により啓蒙改革を断行するという近世ハプスブルク朝のヨーゼフ主義の土壌に、フランス・ジャコバン主義の共和思想が融合するかたちで出現した。それは、封建制の撤廃をめざすハプスブルク朝の啓蒙改革を補強するために、かつて「選挙王政の共和国」を実現していた中・近世ハンガリー王国のいわゆる複合国家の共和主義的伝統を起点に、「世襲王政の共和国」論を体系化したのである。こうして申請者は、従来の近代ヨーロッパ共和政史研究に対して、「王のいる共和政」論という範疇の存在を提起するとともに、それには「選挙王政の共和国」と「世襲王政の共和国」という二つの政体・国家思想が存在したことを提示した(中澤達哉、「ハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論 近代ヨーロッパ共和主義の多様性と共生の諸形態」、森原隆編『ヨーロッパ・「共生」の政治文化史』、成文堂、2013年、84-105頁)。

したがって、このとき、この次に申請者に残された課題は、若手研究(B)および基盤研究(C)における上記の検証結果を踏まえつつ、上記の課題に取り組むことであった。つまり、「王のいる共和政」の国際比較を通じたヨーロッパ・ジャコバン主義の総合的な再検討を行うことであった。これが本研究・基盤研究(B)「ジャコバン主義の再検討:「王のいる共和政」の国際比較研究」(平成28-令和元年度)である。

2. 研究の目的

本研究は、フランス革命以降のヨーロッパ諸国で形成されたジャコバン主義の特性を、「王のいる共和政」論の存在に焦点をあてつつ、縦軸としては近世ヨーロッパ複合国家の共和主義的伝統、横軸としてはヨーロッパ諸国におけるフランス・ジャコバン主義の受容と変容、さらにジャコバン・ネットワークの機能を重視しながら、国際比較の上で多角的に検討することを最大の目的とした。これによって、必ずしもフランス型ジャコバン主義に収斂しないヨーロッパ・ジャコバン主義の多様性を確認しつつ、「王のいる共和政」と「王のいない共和政」の共存という近代ヨーロッパ共和主義がもつ新たな側面の通時的・動態的把握を可能とし、ヨーロッパ共和政史研究に総合的な分析枠を提示することを意図した。

もとより「王のいる共和政」の国際比較によるヨーロッパ・ジャコバン主義の再検討は、前述の環大西洋革命論の延長線上にあるだけではない。周知のように、1970年代から90年代にかけて日欧の歴史学界に登場した社団国家論・複合国家論・礫岩国家論は、従来の近世国家像に大いなる変容を迫った。伝統的な絶対王政論が相対化されたのであるから、絶対王政の存在を前提としてこの絶対王政に対置する革命思想として解釈されてきたジャコバン主義も再検討されて然るべきではないか。フランス革命やアメリカ独立革命(環大西洋革命)で示された共和主義の言説が各国政体に受容される過程と各政体を構成する諸階層の対応を比較する際に、ジャコバン主義は近代ヨーロッパ全体を包括的かつ斬新に比較検討するための分析概念として有用なのである。

以上から本研究は、ジャコバン主義が拡大・浸透したヨーロッパの10か国(フランス、イングランド、ドイツ、イタリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、スウェーデン、エストニア、ロシア)を事例に、ヨーロッパ・ジャコバン主義の再検討:「王のいる共和政」の国際比較研究を行ってきた。特に冷戦終結後の旧ソ連・東欧諸国では、文書館史料の閲覧に以前のような制限がなくなったこともあり、現在、当該地域の歴史研究は世界的に急速に進展している。日本の歴史研究も、現地の研究に貢献しうる環境が生まれているのである。つまり、本研究は、日

本の西洋史研究のみならず、ヨーロッパの歴史学界にも貢献することを主たる目的の一つに掲げていたのである。

3. 研究の方法

「王のいる共和政」の国際比較を通じてヨーロッパ・ジャコバン主義を総合的に再検討するという研究目的に立脚し、本研究は以下の解明すべき3つの項目を設け、分析を進めた。

(1)各国ジャコバン主義の「王のいる共和政」論の検証と比較:「王のいる共和政」論の骨格の確定である。各国独特の近世的秩序観や法慣習がもととなりフランス・ジャコバン主義の受容のされ方に相違が生まれることを想定しつつ、変容の実態を含め、他国との共通点・相違点を詳細に検証した。その際、ジャコバン・ネットワークの機能も補助線として参照した。

(2)各国ジャコバン主義に対する近世複合的国家編成の影響分析:近世に複合的国家編成を採った地域にジャコバン主義が集中的に出現し、多くが「連邦共和国」を志向したという事実に基づき、ジャコバン主義が近世複合国家の実態とその国家理論を、どのように批判し継承し発展させたのかを詳細に検討した。ジャコバン・ネットワークの機能もあわせて分析した。

(3)上記の(1)(2)と関連するが、「王のいる共和政」「連邦共和国」の思想は、従来のジャコバンイメージである革命独裁や中央集権といった「主権の統一」への動きというより、「主権の分散」による複合国家の「現状維持」路線に近い。この問題意識に立って、各国ジャコバン主義の主権論を分析した。

なお、ジャコバン主義の「国際比較」を主眼とする本研究を遂行するにあたっては、比較対象とするフランス、イングランド、ドイツ、イタリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、スウェーデン、エストニア、ロシアを専門とする研究代表者・研究分担者間での問題意識の共有および緊密な連携体制が必要不可欠であった。

すでに本研究開始以前から、研究代表者(中澤達哉)と研究分担者(近藤和彦・小山哲・古谷大輔・池田嘉郎・小森宏美)は、基盤研究(A)「ヨーロッパ境界地域の歴史的経験とパトリア意識/市民権」(代表者:篠原琢、平成22~26年度)ないしは基盤研究(B)「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究」(代表者:古谷大輔、平成25~28年度)を実施し、近世ヨーロッパ周辺地域(ブリテン諸島、中央ヨーロッパ、バルト海沿岸地域、ロシア帝国)の複合的国家政体の長期的持続と近世的國家概念の近代への連続性の存在を相互に確認しあっており、本科研の問題関心を共有していた。また、その他の研究分担者(森原隆・小原淳)とも、共和政と共生に関する共同研究(森原隆編『ヨーロッパ・共生』の政治文化史』、成文堂、2013年;小倉欣一編『近世ヨーロッパの東と西 共和政の理念と現実』、山川出版社、2004年)を通じて、政治文化史の観点から同様の問題意識を共有していた。このように、各国の歴史学界との研究交流に経験豊かな研究者と中堅・若手の研究者とが補完しあうバランスのとれた研究体制と研究者間の連携がすでに確立されていたので、初年度から本格的な共同研究を開始することができた。

また、本研究の目的の一つは、日本の学界の知見が触媒となってヨーロッパ・ジャコバン主義の総合化を前進させることに置かれていた。本研究では、研究代表者・研究分担者各々のこれまでの各国歴史学界との研究交流を踏まえながら、各ジャコバン主義との関係性については R. J. Evans(オックスフォード大学)、B. Trenchényi(ブダペシュト・中央ヨーロッパ大学)、D. Tinková(プラハ・カレル大学)、A. Grzeskowiak-Krwawicz(ワルシャワ・ポーランド科学アカデミー)など、各地域の政体論と政治思想を先駆的に議論してきたヨーロッパの歴史学者とも緊密に連携し、偏りのない研究体制を構築してきた。

本研究の進捗状況や研究費執行の確認など、本研究の遂行に必要な実務的な連絡については、先の共同研究の際に構築されたネットワークを通じて日常的に行える体制をすでに築いているため、研究期間内に連携する海外の研究者の変更、研究の進捗の確認や変更の議論はこの日常的な連絡体制を活かして行われてきた。

年度ごとの具体的な研究方法は以下の通りであった、

【平成28年度】

方法論的な共通の分析枠の構築

国際比較研究の基盤となる方法論的な分析枠を構築するために、個別に以下の作業を行った。

A)ジャコバン主義に関する各国の最新の先行研究の収集・整理とその批判的検討〔研究代表者・研究分担者〕

B)ヨーロッパに広がるジャコバン・ネットワークに関する研究文献の整理とその批判的検討〔研究代表者〕

個別的な実証研究を進めるための史料収集と分析の開始

A)個別的な実証研究を進めるための一次史料を収集しその分析を開始〔研究代表者・研究分担者〕。当該年度はおもに各国ジャコバン主義の「王のいる共和政」論の検証を行った。

B)ジャコバン主義者間の接触およびジャコバン・ネットワークの機能に関しては、研究代表者の予備的調査によってオーストリア国立文書館に史料が存在することが判明していた。なお、ハンガリー近世史家 E. コヴァルスカ他編の研究書(Eva Kowalská a Karol Kantek (eds.), Uhorská rapsódia alebo tragický príbeh osvietenca Jozefa Hajnóczyho, Veda, 2008)が本研究に関わる基礎的な史料情報を提供しているので、折に触れて参照し、不足史料の収集と分析を進めた。

研究者間の知見の共有と比較研究

当該年度は「王のいる共和政」およびジャコバン・ネットワーク研究の進捗と知見をすべての研究者が共有し、各国の事例を比較検証するために、平成 28 年 5 月、平成 29 年 3 月に、それぞれ東京と和歌山で 2 回の研究会を開催した。

【平成 29 年度】

個別的な実証研究を進めるための史料収集と分析の継続（1）

個別的な実証研究を進めるための一次史料の収集とその分析を継続した。前年度中に確立された方法論的な分析枠に基づき、当該年度はおもに各国ジャコバン主義に対する近世複合的国家編成の影響分析およびジャコバン・ネットワークの機能分析、同時に当該テーマの研究文献の収集を行った。

研究者間の知見の共有と比較研究

当該年度は各国ジャコバン主義に対する近世複合的国家編成の影響分析の進捗と知見をすべての研究者が共有し、各国の事例を比較検証するために、平成 29 年 5 月および 11 月に東京と京都で各 1 回の研究会を開催した。

外国研究者の招聘による国際ワークショップの開催

ハンガリー近世史家 E. コヴァルスカを招聘して、平成 29 年 9 月に東京で国際ワークショップを開催した。このワークショップは、現地研究者の先端的知見に学ぶだけではなく、現地研究者が専門外とする地域を研究対象とする本学メンバーの知見をもって、現地研究者に対して日本側からジャコバン主義の総合的再検討への議論を新たに提言する目的で実施された。

【平成 30 年度】

個別的な実証研究を進めるための史料収集と分析の継続（2）

個別的な実証研究を進めるための一次史料の収集と分析を継続した。当該年度はおもに各国ジャコバン主義の主権論の分析およびジャコバン・ネットワークの機能分析、同時に当該テーマの研究文献の収集を行った。

研究者間の知見の共有と比較研究

当該年度は各国ジャコバン主義の主権論研究の進捗と知見をすべての研究者が共有し、各国の事例を比較検証するために、平成 30 年 5 月および同 11 月に、東京と大阪で各 1 回の研究会を開催した。

ブダペシュトにおける国際ワークショップの開催

平成 31 年 3 月に本研究メンバー全員がハンガリー・ブダペシュトの中央ヨーロッパ大学歴史学部を訪問し、当地で開催される国際ワークショップ「ヨーロッパ・ジャコバンと共和主義」(International Workshop: European Jacobins and Republicanism, Hosted by the Grant-in-Aid for Scientific Research (B) "Reconsidering Jacobinism", Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), and Pasts, Inc Center for Historical Studies, Department of History (CEU)) を通じて、現地のジャコバンの研究者と研究交流を行った (<https://pasts.ceu.edu/events/2019-03-18/european-jacobins-and-republicanism>)。昨年度と同様、本ワークショップは、現地研究者の先端的知見に学ぶだけではなく、現地研究者が専門外とする地域を研究対象とする本研究メンバーの知見をもって、現地のジャコバンの研究者に対して、日本側からジャコバン研究の総合的再検討に向けた議論を新たに提起する目的で実施された。

【平成 31 年度・令和元年度】

国際比較研究の総合化の作業

前年度までの作業をさらに推し進め、ジャコバン主義の「王のいる共和政」論に関する国際比較研究の総合化に従事した。比較作業では、「大西洋・地中海圏」「東中欧圏」「北欧・ロシア圏」の 3 つの地域について、「革命」「自由」「共和政」の読み替え」「近世複合国家の共和主義的・連邦的遺産」および「主権の統一と分散」を軸に総仕上げを行った。

そうした 4 年間の研究の集大成の一環として、令和元年 5 月に第 69 回日本西洋史学会小シンポジウム「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン」を開催した。ジャコバン主義のヨーロッパ的展開の詳細と近代共和主義の多様な形態が最終的に確認された (<http://www.seiyoushigakkai.org/2019/symposia.html#%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0%E2%85%A5>)

同様に、4 年間の研究の集大成として、令和元年 7 月に開催した東京国際・早稲田西洋史シンポジウム "Waseda Symposium on Global History Part1 "Organic Metaphors and the State in Medieval and Modern Europe" では、同年 3 月のブダペシュト・シンポで確認されたジャコバン主義の近世の政治的人文主義の文脈を深く掘り下げ、中世国家有機体論と国民形成の関係性を検証した。 (https://www.waseda.jp/inst/wias/assets/uploads/2019/07/190713_poster.pdf)。なお、当該年度の後半からは、以上を通じて得られた研究成果を、国内外で論文集として公刊する準備を始めている。

4. 研究成果

以上のように本研究は、「王のいる共和政」の国際比較を通じて、近代ヨーロッパ共和主義の全般的な再検討を行った。共同研究の結果、ハンガリーのみならず、ドイツ・ポーランド・スウ

エーデン・オーストリアでも、ジャコバンを名乗る「王のいる共和政」思想と運動が存在したことが判明した。さらに、これらの地域における「王のいる共和政」論の源流を、政治的人文主義 (political humanism) による古代ローマ 共和政の近世的再解釈に求めた上で、中東欧におけるその拡大の要因の一つとして、これが啓蒙絶対王政の正当化原理として機能したプロセスを実証することができた。この最新の研究成果は、国際的に発信する必要があることから、平成 31 年 3 月にブダペシュトの中央ヨーロッパ大学歴史学部にて同科研主催の国際会議 European Jacobins and Republicanism (<https://pasts.ceu.edu/events/2019-03-18/european-jacobins-and-republicanism>) を開催した。日本語では、同年 5 月の西洋史学会小シンポジウムにてこれを公表した。また、同年 7 月の東京国際・早稲田西洋史シンポでさらに論点を絞り、英語で公表した。以上の成果は、中澤達哉 編『向う岸のジャコバン』(岩波書店、2021 年)として刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 42
2. 論文標題 東欧史研究を考える－過去・現状・展望－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 840
2. 論文標題 良知力『向う岸からの世界史』 「歴史なき民」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 36
2. 論文標題 註釈『イギリス史10講』 - または柴田史学との対話 - （下の2）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立正大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 989
2. 論文標題 合同部会：「主権国家」再考 Part 2：コメント1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 196-198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 第18回日韓歴史家会議報告書
2. 論文標題 「複合国家」「複合王政」「礫岩国家」－主権国家の相対化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際関係－その歴史的考察	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 35
2. 論文標題 さよならの挨拶：フランス人とイギリス人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正史学	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田嘉郎	4. 巻 45
2. 論文標題 テクニカラーのソ連 『金星勲章の騎士』に見る戦後ソヴィエト社会と日本	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋史学報	6. 最初と最後の頁 9-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 976
2. 論文標題 君主政の狭間から見る近世的主権国家 スコーネ住民と「正しき統治」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 160-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 23
2. 論文標題 鉄のカーテンを超えて—スコーネの「国替え」を巡るデンマークとスウェーデンの研究史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDUN - 北欧研究 -	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古谷大輔	4. 巻 716
2. 論文標題 .近世ヨーロッパの国家	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 34
2. 論文標題 註釈『イギリス史10講』 - または柴田史学との対話 - (下の1)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立正大学大学院紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小山哲	4. 巻 40
2. 論文標題 多宗派の共和国 近世ポーランド・リトアニア共和国における諸宗派共存体制とその変容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東欧史研究	6. 最初と最後の頁 109-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 9(5/1)
2. 論文標題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中澤達哉	4. 巻 125(5)
2. 論文標題 2015年の歴史学界 回顧と展望：近代ロシア・東欧・北欧	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 358-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 19
2. 論文標題 文明を語る歴史学 - 近世の表象	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 七隈史学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤和彦	4. 巻 140
2. 論文標題 『悲劇のような史劇ハムレット』を読む	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文学部論叢	6. 最初と最後の頁 45-68.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山哲	4. 巻 260
2. 論文標題 17世紀危機論争と日本の「西洋史学」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 84-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小山哲	4. 巻 77-1
2. 論文標題 「史学史」の線を引き直す ヒストリオグラフィにおける「近代」をどう捉えるか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 史苑	6. 最初と最後の頁 96-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小森宏美	4. 巻 1005
2. 論文標題 エストニア 人道犯罪調査国際委員会と歴史家のアポリア	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小森宏美	4. 巻 1005
2. 論文標題 ラトヴィア 歴史家委員会と戦う歴史外交	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田嘉郎	4. 巻 31
2. 論文標題 トルストイ『戦争と平和』とロシア社会：祖国戦争100周年と第一次世界大戦に見る	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 SLAVISTIKA	6. 最初と最後の頁 195-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田嘉郎	4. 巻 97
2. 論文標題 第一次世界大戦とロシア・リベラルのヨーロッパ認識：カデットを中心にして	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木真・古谷大輔	4. 巻 257
2. 論文標題 フォーラム 近世史研究の現在と「礫岩のような国家」への眼差し	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 西洋史学	6. 最初と最後の頁 58-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿南大	4. 巻 25
2. 論文標題 ハプスブルク君主国におけるナショナリズム ―その位置づけをめぐる史学史的概観―	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東洋学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小原淳	4. 巻 38
2. 論文標題 帝政期ドイツにおけるナショナリズムと対フランス意識 セダン、ライプツィヒ、そしてソムムへ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西洋史論叢	6. 最初と最後の頁 3 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小原淳	4. 巻 1
2. 論文標題 1926年の西岡虎之助と平泉澄 戦後史学への分岐としての	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科研費成果報告書 (海津一朗編 『西岡虎之助神話+故郷と絵図+よみがえる天野 圃場整備事業と荘園調査』)	6. 最初と最後の頁 56-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計53件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 世襲原理と選挙原理の王位継承 マリア=テレジア、表象、ジェンダー
3. 学会等名 ジェンダー史学会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 コメント: 「東欧」から、「近世・近代」から、考える
3. 学会等名 2019年度現代史研究会大会「平成時代の現代史研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya NAKAZAWA
2. 発表標題 “Slovak Nation as one of the Limbs of Sacra Corona: Invoking Traditional Organic Metaphor for Modern Nation-Building”
3. 学会等名 WIAS Seminar Series: Potentiality of the New Notion of the “Global History”: Waseda Symposium on European History Part 1 “Organic Metaphors and the State in Medieval and Modern Europe”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 ハンガリー・ジャコパンの「王のいる共和政」思想の生成と展開 「中東欧圏」という共和主義のもうひとつの水脈
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコパン 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 「東欧史」研究を考える 過去・現状・展望
3. 学会等名 東欧史研究会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：「天皇と皇位継承のコスモロジー — 『創られた明治、創られる明治』と『天皇はいかに受け継がれたか』から考える」
3. 学会等名 歴史学研究会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 「東欧史」研究を考えるー過去・現状・展望ー
3. 学会等名 東欧史研究会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 ハンガリー・ジャコパンの「王のいる共和政」思想の生成と展開ー「中東欧圏」という共和主義のもうひとつの水脈
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコパン」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 シンポジウム趣旨説明：「合同部会 「主権国家」再考 Part 2ー翻訳される主権」
3. 学会等名 歴史学研究会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya NAKAZAWA
2. 発表標題 Slovak Nation as one of the Limbs of Sacra Corona: Invoking Traditional Organic Metaphor for Modern Nation-Building
3. 学会等名 WIAS Seminar Series: Potentiality of the New Notion of the “Global History”: Waseda Symposium on European History Part 1 “Organic Metaphors and the State in Medieval and Modern Europe”（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 コメント：「東欧」から、「近世・近代」から、考える
3. 学会等名 2019年度現代史研究会大会「平成時代の現代史研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 世襲原理と選挙原理の王位継承ー マリア=テレジア、表象、ジェンダー
3. 学会等名 ジェンダー史学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 ジャコバン研究史から見えてくるもの
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 コメント：主権なる概念の歴史性・関係性
3. 学会等名 歴史学研究会大会・合同部会「主権国家」再考 Part 2：翻訳される主権
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 コメント：天皇像の歴史を考える
3. 学会等名 史学会大会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Koyama
2. 発表標題 Vicissitudes of the "Noble Republicanism" in contemporary Poland
3. 学会等名 CGSI Weekly Colloquium, Sogang University, Seoul (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小山哲
2. 発表標題 ポーランドでひとはどのようにジャコバンになるのか ユゼフ・パヴリコフスキの場合
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 混合政体の更新と「ジャコバンの王国」 スウェーデン王国における「革命」の経験
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小原淳
2. 発表標題 コメント：ドイツ史の視点から「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン
3. 学会等名 第69回日本西洋史学会小シンポジウム「革命」「自由」「共和政」を読み替える 向う岸のジャコバン 」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 ハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論－主権・国民・連邦制
3. 学会等名 早稲田大学史学会講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 「王のいる共和政」から「王のいない共和政」へ－ハンガリー・ジャコバン主義にみる共和主義の多様性
3. 学会等名 近現代史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 「複合国家」「複合王政」「礫岩国家」－主権国家の歴史的相対化
3. 学会等名 第18回日韓歴史家会議（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 チェコスロヴァキア主義の起源－選挙王政の祖国、信仰の祖国、民族の祖国
3. 学会等名 第3回ボヘミア・フォーラム「チェコスロヴァキア共和国建国100周年、共同国家の70年」(ボヘミア・フォーラム)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 主権・国民・連邦制－ハンガリー初期ジャコバン主義の「王のいる共和政」理論から考える
3. 学会等名 早稲田大学ロシア研究所研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 チェコスロヴァキア主義・チェコスラヴ主義・スラヴ主義再考 主権国家論・礫岩国家論の視座
3. 学会等名 早稲田大学ロシア文学会秋季公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuya NAKAZAWA
2. 発表標題 Creation of the thought of “Republic with King” of the early Hungarian Jacobins, 1793
3. 学会等名 International Workshop: European Jacobins and Republicanism at Central European University, Budapest, Hungary（招待講演） （国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiko KONDO
2. 発表標題 What do we expect from Jacobin historiography?
3. 学会等名 International Workshop: European Jacobins and Republicanism at Central European University, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小森宏美
2. 発表標題 エストニアにおける少数民族政策の変遷：戦間期と冷戦後の比較から
3. 学会等名 ロシア・東欧学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiromi KOMORI
2. 発表標題 From Estonian studies to comparative historical studies: A view of a Japanese scholar
3. 学会等名 International Conference and Seminar "Japan and Estonia: Contemporary challenges in humanities and social sciences" at Tartu University, Estonia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田嘉郎
2. 発表標題 テクニカラーのソ連 生活様式としてのハイ・スターリニズム
3. 学会等名 第68回日本西洋史学会小シンポジウム「社会主義圏をめぐる歴史研究の行方 ソ連・東欧史・ドイツ史の観点から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshiro IKEDA
2. 発表標題 Russia in 1917: Legacies of the Centennial, Unanswered Questions, New Agendas
3. 学会等名 Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) Annual Convention (Boston, USA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 「ジャコバンの王国」への君主政の更新 スウェーデン君主政における共和主義とジャコバンたち
3. 学会等名 バルト・スカンディナヴィア研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 君主政の狭間から見る近世の主権国家 スコーネ住民と「正しき統治」
3. 学会等名 2018年度歴史学研究会大会合同部会シンポジウム「主権国家」再考」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke FURUYA
2. 発表標題 Swedish experience of “revolution” as a renewal of “monarchia mixta”
3. 学会等名 International Workshop: European Jacobins and Republicanism at Central European University, Budapest, Hungary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中澤達哉
2. 発表標題 リブライ：池田嘉郎による書評 井内敏夫編『ロシア・東欧史における国家と国民の相貌』（晃洋書房、2017年）
3. 学会等名 東欧史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤和彦
2. 発表標題 近世ヨーロッパにおける主権と主権国家
3. 学会等名 立正大学史学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi Koyama
2. 発表標題 The Image of the Polish-Lithuanian Commonwealth from the Perspective of Japanese Historiography
3. 学会等名 The Third Congress of International Researchers of Polish History, The Jagiellonian University, Krakow (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshiro Ikeda
2. 発表標題 The Provisional Government and the East Within and Outside Russia
3. 学会等名 The Asian Arc of the Russian Revolution: Setting the East Ablaze? (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 近世の北欧国家
3. 学会等名 神奈川県高等学校教科研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古谷大輔
2. 発表標題 近世 / 近代の時代区分をめぐるミッシングリンク ローカルな問題とグローバルな問題
3. 学会等名 2017年度西洋史読書会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿南大
2. 発表標題 英国自由主義史学とハプスブルク君主国
3. 学会等名 東欧史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小原淳
2. 発表標題 第一次世界大戦はいかにして始まったか
3. 学会等名 福井県立図書館・文書館開館15周年/ふるさと文学館開館3周年記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小原淳
2. 発表標題 合評会 C・クラーク著、小原淳訳『夢遊病者たち - 第一次世界大戦はいかにして始まったか 』（みすず書房、2017年）
3. 学会等名 現代史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小原淳
2. 発表標題 革命と建国 ナッハメルツの革命家たちをめぐって
3. 学会等名 早稲田大学史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小原淳
2. 発表標題 世界史のなかの紀州、紀州のなかの世界史
3. 学会等名 紀州地域学共同研究会・研究集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuya Nakazawa
2. 発表標題 The theoretical basis of the conglomerate formations of the Habsburg Monarchy -Dealing with an emergency in the Kingdom of Hungary-
3. 学会等名 International Cambridge Workshop on 'A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern Europe'（国際学会）
4. 発表年 2016年

1 . 発表者名 Tatsuya Nakazawa
2 . 発表標題 National identity as future aspirations: A case study of the students at Selye Janos University in Komarno, Slovakia - Analysing the results of questionnaires in 2011 and 2014
3 . 学会等名 Transboundary Symbiosis over the Danube: EU Integration between Slovakia and Hungary from a Local Border Perspective (Part III) (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Satoshi Koyama
2 . 発表標題 The multi-confessional Commonwealth: a reconsideration on the coexistence of different religious groups in the Early Modern Poland-Lithuania
3 . 学会等名 Summer International Symposium 2016 in Vilnius " Entangled interactions between religions and national identities in the space of the former Polish-Lithuanian Commonwealth " (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Satoshi Koyama
2 . 発表標題 How did people observe and describe extraordinary natural phenomena in the period of the Global Crisis? Some cases from the documents of seventeenth century Poland
3 . 学会等名 Fifth International Symposium on Human Survivability: " Disasters and Human Survivability: Enhancing Resilience to Risks Threatening the Future of Humanity " (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Yoshiro Ikeda
2 . 発表標題 Time and the Comintern: Rethinking the Cultural Impact of the Russian Revolution on Japanese Intellectuals
3 . 学会等名 The Third Annual Conference of the Graduate School for East and Southeast European Studies: The Culture of the Russian Revolution and Its Global Impact: Semantics ? Performances ? Functions) (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名
2. 発表標題 1917 :
3. 学会等名 X (1914-1922) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Daisuke Furuya
2. 発表標題 Rethinking "Swedification": conglomeration of human resources and Swedish composite monarchy
3. 学会等名 International Cambridge Workshop on 'A Conglomerate Europe: Rethinking the Early Modern Europe' (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小原淳
2. 発表標題 オスマン帝国の軍制改革と近代化への問い ドイツ史の視点から
3. 学会等名 早稲田大学高等研究所・ギュルテキン・ユルドゥズ氏講演会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計32件

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340 (分担箇所: 156-157)
3. 書名 論点・西洋史学 (分担執筆: エトノス論)	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340 (分担箇所 : 146-147)
3. 書名 論点・西洋史学 (分担執筆 : レス・プブリカ)	

1. 著者名 小森宏美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 251 (119 - 133)
3. 書名 現代ヨーロッパの安全保障ーポスト2014 : パワーバランスの構図を読む (分担執筆 : 変化する安全保障環境とエストニア)	

1. 著者名 小森宏美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 367 (202 - 216)
3. 書名 新世界の福祉 5 旧ソ連東欧 (分担執筆 : エストニアにおける複合型福祉枠組みの構築とその特徴)	

1. 著者名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 " " . . . ()	5. 総ページ数 435 (354-370)
3. 書名 (part: : . . .)	

1. 著者名 古谷大輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340(148-149)
3. 書名 論点・西洋史学(項目執筆:主権/主権国家/主権国家体制)	

1. 著者名 古谷大輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340(158-159)
3. 書名 論点・西洋史学(項目執筆:複合国家/複合君主政/礫岩国家)	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 261(分担箇所:45-67)
3. 書名 歴史学者と読む高校世界史-教科書記述の舞台裏(分担執筆:「高校世界史教科書の中・東欧記述」)	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2019年
2. 出版社 績文堂出版	5. 総ページ数 312(分担箇所:285-308)
3. 書名 天皇はいかに受け継がれたか-天皇の身体と皇位継承(分担執筆:「ヨーロッパの選挙王政と世襲王政-天皇譲位に寄せて」)	

1. 著者名 近藤和彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 92
3. 書名 近世ヨーロッパ	

1. 著者名 小原淳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 世界史とつながる日本史:紀伊半島からの視座(分担執筆:「和歌山の景教碑」)	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 績文堂	5. 総ページ数 82-98(303)
3. 書名 歴史学研究会編『第4次 現代歴史学の成果と課題』第2巻「世界史像の再構成」(担当:「国民国家論以後の国家史/社会史研究ー構築主義の動態化/歴史化に向けて」)	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 236(1-6)
3. 書名 井内敏夫編『ロシア・東欧史における国家と国民の相貌』(分担執筆:東欧史研究の諸潮流と井内史学)	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 235 (28-45)
3. 書名 井内敏夫編『ロシア・東欧史における国家と国民の相貌』（分担執筆：近世礫岩国家と近代国民国家のあいだーハプスブルク朝ハンガリー王国の国家概念史的分析）	

1. 著者名 Tatsuya Nakazawa	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Waseda University Press	5. 総ページ数 149 (69-76)
3. 書名 O. Ieda and S. Nagayo (ed.), Transboundary Symbiosis over the Danube: Re-thinking the meaning of Symbiosis - Past, Present and Future (Chapter 9 National identity as future aspirations: A case study of the students at Selye Janos University in Komarno, Slovakia - Analysing the results of questionnaires in 2011 and 2014)	

1. 著者名 森原隆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 326
3. 書名 森原隆編『ヨーロッパの政治文化史 統合・分裂・戦争』	

1. 著者名 小森宏美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 235 (165-182)
3. 書名 井内敏夫編『ロシア・東欧史における国家と国民の相貌』（分担執筆：エストニア史学史における一九〇五年革命 歴史家に見る社会的記憶化と忘却に関する一考察）	

1. 著者名 小森宏美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 326 (259-274)
3. 書名 森原隆編『ヨーロッパの政治文化史 統合・分裂・戦争』（分担執筆：国民形成と歴史叙述 両大戦間期のエストニアを事例として）	

1. 著者名 小森宏美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 336 (236-255)
3. 書名 橋本伸也編『せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題 ナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤』（分担執筆：エストニアとラトヴィアの社会統合 歴史教育による国民化と社会的包摂の行方）	

1. 著者名 小森宏美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 336 (263-288)
3. 書名 宇山智彦編『ロシア革命とソ連の世紀 5 越境する革命と民族』（担当：バルト三国の独立再考 ソ連解体への道程）	

1. 著者名 池田嘉郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 池田嘉郎責任編集『世界戦争から革命へ（ロシア革命とソ連の世紀1）』	

1. 著者名 古谷大輔	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 650
3. 書名 北欧文化協会, バルト=スカンディナヴィア研究会, 北欧建築・デザイン協会編『北欧文化事典』	

1. 著者名 中澤達哉	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 礫岩のようなヨーロッパ(分担執筆: ハプスブルク君主政の礫岩のような編成と集塊の理論 非常事態へのハンガリー王国の対応)	

1. 著者名 Tatsuya Nakazawa	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Grafis Media	5. 総ページ数 272
3. 書名 Forms of Political and Media Propaganda in Central Europe, Czecho-Slovakia and Hungary (1939-1968) (分担執筆: The exaltation of the Slovak State and its entry into the Tripartite Pact in Japanese media propaganda, 1939-1940)	

1. 著者名 近藤和彦	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 礫岩のようなヨーロッパ(分担執筆: 礫岩のような近世ヨーロッパの秩序問題)	

1. 著者名 森原隆	4. 発行年 2016年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 346
3. 書名 EU・欧州統合研究 “Brexit”以降の欧州ガバナンス（分担執筆：ヨーロッパとは何か 欧州統合の理念と歴史）	

1. 著者名 小山哲	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 礫岩のようなヨーロッパ（分担執筆：複合国家のメンテナンス 17世紀のリトアニア貴族の日記にみるポーランド=リトアニア合同）	

1. 著者名 小山哲	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 456
3. 書名 「世界史」の世界史（分担執筆：実証主義的「世界史」）	

1. 著者名 池田嘉郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波新書	5. 総ページ数 256
3. 書名 ロシア革命 破局の8か月	

1. 著者名 池田嘉郎・塩川伸明	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 東大塾 社会人のための現代ロシア講義	

1. 著者名 池田嘉郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 308
3. 書名 ロシアと日本：自己意識の歴史を比較する（分担執筆：交差する日本とロシアの軌跡：一九〇五-一九四五年）	

1. 著者名 古谷大輔	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 礫岩のようなヨーロッパ（分担執筆：バルト海帝国の集塊と地域の変容 スコーネの編入とスコーネ貴族の戦略）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>European Jacobins and Republicanism https://pasts.ceu.edu/events/2019-03-18/european-jacobins-and-republicanism</p> <p>http://www.seiyoushigakkai.org/2019/symposia.html#%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0%E2%85%A5</p> <p>Waseda Symposium on European History https://www.waseda.jp/inst/wias/news-en/2019/07/04/6409/</p> <p>Waseda Symposium on European History https://www.waseda.jp/inst/wias/assets/uploads/2019/07/190713_poster.pdf</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 和彦 (Kondo Kazuhiko) (90011387)	立正大学・人文科学研究所・研究員 (32687)	
研究分担者	森原 隆 (Moriyama Takashi) (70183663)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	小山 哲 (Koyama Satoshi) (80215425)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	小森 宏美 (Komori Hiromi) (50353454)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	池田 嘉郎 (Ikeda Yoshiro) (80449420)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	古谷 大輔 (Furuya Daisuke) (30335400)	大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・准教授 (14401)	
研究分担者	小原 淳 (Obara Jun) (20386577)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	阿南 大 (Anami Dai) (50600904)	東洋学園大学・東洋学園教養教育センター・特別講師 (32520)	2018年4月より研究分担を外れる(研究者番号の喪失による)